

フィンドレー大学の留学生支援
フィンドレー大学奨学生レポート・機械工学系（2月）

雪の降る頻度が少なくなり、日の落ちる時間が先月に比べ遅くなっているのが感じられます。奨学生としての生活も残り2ヶ月となり、時があっという間に過ぎていったと感じています。今月はインターンシップにおける新プランの取り組みのほか、私が利用するフィンドレー大学の施設の様子についてお伝えします。

Nissin Brake Ohio (NBO) :



クーラントをリサイクルするための装置

1月のセミナーを受け、新たなプランでのプロジェクトが動き出しました。

過日、新たなプランにおける費用の計算を終えました。これは、NBO が使用する切削用潤滑油（クーラント）の総量やこれをリサイクルする際にかかる時間、さらにリサイクルに関わる従業員の労働コストの計算です。以前はクーラントの購入費用などしか計算に加えておりませんでした。今回アドバイザーの指導のもと算出されたコストはとても細かく、より納得のいくものになったと感じています。

現在は新プランの有効性を確かめるため、テストを行う準備を進めています。テストに用いる設備が故障し、また長い間使用されていなかったため、洗浄と

修理を同時に行っています。上の写真はその設備で、クーラントを綺麗にするためのものです。故障した箇所がなかなか掴めず、テストまでの道のりがとても遠く感じる日もありますが、逆に修理方法を学ぶ機会と捉え、粘り強く取り組もうと思います。

新プランはより説得力のある内容となりました。しかし一度プランが変わり、プロジェクトの期間が残り2ヶ月を切ったことで、焦りを感じていることも確かです。今までやってきたことが無駄でないと思うと同時に、できることに全力で取り組んでいこうと思う毎日です。

最近、E-mail でやりとりをする機会が増え、日本語と英語の差を感じる場合があります。日本語でメールを書く際には、丁寧な表現や細かな挨拶を入れることで本文が長くなる傾向にあると感じます。対して英語の場合には、丁寧な表現も使いますが、どちらかという内容を簡潔に伝えることを第一におかれていると感じます。

先日の日本のニュースでも、英語を社内公用語化したことに対する影響を知りました。公用語化した会社では、報告のメールは短くなり、業務軽減につながると報道されていました。

もしかしたら英語は、外国人と仕事をするためだけでなく、日本人同士の効率的なコミュニケーションの道具としても有効であるのかもしれませんが。

図書館：



市立図書館の明るい館内



大学内図書館の落ち着いた館内

フィンドレーの学生が利用する図書館は2つあります。同じ目的の空間であるにもかかわらず、どちらも異なる個性があり素敵に思います。1つは大学の付属図書館であり、主に学術書が揃っています。私も良く利用するのですが、静かな場所で、1人で集中して勉強したいという時にはぴったりに思います。ラウンジは24時間空いており、飲食もできるため、ゆったりと過ごす事ができます。もう1つは市立図書館の Hancock Library です。こちらは一般書が主で、DVDなどのメディアも多く揃っています。少し驚いたのが、日本の漫画が多く置かれていることでした。日本でも報道を見たことがあります。小さな子供から大人まで漫画のコーナーで本を読んでいるのを見ると、日本のアニメーションや漫画がこちらにも受け入れられ楽しまれている事を実感します。私もこれらの文化を親しんで過ごしてきたため、国が違えども同じ楽しみを共有出来ることを嬉しく感じました。

カンバセーションテーブル :



カンバセーションテーブルに参加する学生たち

フィンドレー大学には英語学習をサポートする環境が整っています。その一つが、カンバセーションテーブルと言われるシステムです。英会話教室のようなもので、利用者はここで好きなだけ担当の方と話すことができます。会話を通して楽しみながらスピーキング、リスニング力を高めることができ、私はよく通っています。何より素晴らしいと感じるのは、どのパートナーの方も優しく、自分のペースに合わせてもらえることです。英語や文化について気軽に質問をすることができるため、聞き過ぎてつい長居してしまうこともあるほどです。

International Admission office:

学習支援について触れましたが、留学生を支援する環境も充実しています。大学には、現在約400名の留学生が在席しています。International admission officeはその留学生を支援するオフィスです。このオフィスは留学生が入学事務を行う他、学校生活での悩みや分からないことを相談できます。基本的には生活全般の事柄を相談に乗って頂けます。今月、私は住居の電気料金のことで相談に行きました。『どんなことが気になっているの？良かったら電話をかけてみましょうか？』と、相談だけでなくその場で電気会社へ電話で確認を取って頂きました。このオフィスのことを例にとると、学生の生活もサポートすることで、学業に専念しやすい環境を作っている姿勢が伺えます。手厚い学習支援だけではなく、留学生にとって生活しやすい環境にこの大学の魅力を感じます。